

釣塔大学新聞

修聖女大教授が援助交際 相手は釣塔大学医学部の学生

十七日、修聖女子大学の梅津文昭教授が援助交際を行っていることが判明した。交際相手は二十一歳の釣塔大学医学部の学生ということだ。

梅津教授は十五日にその学生とともにつくば市内のホテルで性行為を行ったとされる。その際ホテルに入る姿を妻に目撃され、帰宅したところで問い詰められ自白、発覚に至った。

相手が十八歳を超えているため法律には抵触しないが、修聖女子大学は処分を検討している。また、梅津教授の妻は離婚手続きを進めており、今週中には離婚が成立すると思われる。釣塔大学はその学生に対しては、事情を考慮し不問とするとした。

梅津教授は「向こうから話を持ちかけてきたんだ。俺は協力してやっただけなんだぞ。なんも悪いことしてないじゃないか。」と声を荒げた。

釣塔大学はその学生の個人情報は一切公表しないとしたが、修聖女子大のホームページで誤って公表されてしまい、ネット上で祭りになっている。現在はソーシャルメディア学術学部とフィッシング研究学部の学生の有志が火消しに当たっている。

近未来スポーツ学部の静益日湯君が、射精距離4メートル26センチという恐ろしい記録を達成した。静益君は世界記録として国際スポーツ委員会に申請中である。

しかし測定時の会場の風速はおよそ5メートルであったため記録としての公平性が争点となっている。

世界記録に認定された場合、日本人としては初となる快挙である。また、静益君は射精時間7秒23という記録を



露草留紺流

いよいよ卒業式まで一週間を切った。千人弱の塔大生が世界へと送りだされて行く。当新聞部の調査によると、卒業生の内四分の三が大学院に進学もしくは企業に就職という道歩むようだ。おもな就職先として今北産業や壁殴り代行社、自宅警備員など例年通り大手企業の面々が並ぶ。将来、塔大生は先の大手企業などを引っ張っていく存在となるのだろう。彼らは未来の日本、いや世界を担う人材なのである。引っ張るのは足ではなく、手であってほしいものである。ちなみに、私事ではありますが来年度も樗才が露草留紺流の執筆を担当することとなりました。来年度もお付き合いして頂きたい。

驚異的な射精距離！！

持っており、関東スポーツ協会主催の関東射精大会では1位、全日本体育連盟主催の全国総合射精大会では3位という記録を保持している。

また、医学部の研究チームが、射精の最も飛ぶ角度と貯める時間についての論文を発表し、学会で話題となっている。その論文によると、最もよく飛ぶ角度は仰角十二度、貯める時間は2日だということだ。これを踏まえて静益君たちにはより一層射精に励んでもらいたい。

医学部の講義中に奇声

「我は大天使の化身なり」

十四日午前、医学部の講義中に平等院忠仁君が突然奇声をあげ、講義室を飛び出したという。

講義室にいた学生によると、平等院君は「やめる：静まれ」と叫びながら突然立ち上がり、注目を集めていることを知ると「我は大天使の化身なり。貴様らを巻き込むわけにはいかない。」と走り去ったという。

平等院君の中学時代からの友人の話によると彼は中学生の時に見た映画の影響でこのような奇行をするようになったのだという。平等院君はそれ以来大学には一度も来ておらず、真相は不明である。

告

4月から就職活動による人員不足のため釣塔大学新聞は月刊になります。刊行日は毎月第二火曜日です。また、釣塔大学新聞部は入部希望者を募集しています。私たちとともに新聞を創りませんか？

詳しくは釣塔大学新聞部ホームページへ